

般募集分の消化状況をみると、証券会社取扱額が中期利付国債の落札分(中期利付国債総発行量の約65%)を含めるとかなりの高水準となったうえ、既発債利回りが新発債応募者利回りを徐々に上回るに至ったことから、一部売れ残りを生じた模様である。

6月の金融債発行額(純増ベース)は、1,236億円と前年(1,897億円)を大幅に下回ったが、運用部引受分の買入消却等を除いた市中消化分をみると、利付債が発行銀行の発行抑制から前年を下回ったものの、個人向け割引債の増加から全体ではほぼ前年並みにとどまった。

実体経済の動向

◇在庫調整は引続き進展

(生産—小幅増加)

5月の鉱工業生産指数(50年基準指数、速報、季節調整済み^(注)、前月比)は、+0.3%(船舶を除くでは+0.4%)と7か月連続の増加となったが、伸び率は前月に引続き小幅なものにとどまった(前年同月比+6.6%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

5月の生産を財別にみると、一般資本財が減少したもののその他の財は軒並み増加した。すなわち、資本財輸送機械は小型自動車、トラック等の増加を主因に前月減少のあと再び増加し、建設財もセメント、コンクリートパイプ、小棒等を中心にわずかながら増加した。また耐久消費財も自動車(軽、小型)、電子レンジ、電気冷蔵庫等を主体に増加を続け、非耐久消費財も服類、メリヤス外衣、革ぐつ等の増加から4か月ぶりに増加したほか、生産財もアルミ地金、C重油、化学肥料等が

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年			53年	53年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鉱工業	115.3	115.1	116.8	120.2	121.9	122.0	122.4
前期(月)比	-0.1	-0.2	1.5	2.9	2.1	0.1	0.3
前年同期(月)比	4.4	2.1	2.1	4.2	5.1	5.9	6.6
投資財	-1.3	0.5	2.4	3.4	5.5	-0.5	-1.7
資本財	-1.3	1.5	2.5	3.7	7.0	0.6	-2.4
同(輸送機械を除く)	-1.8	0.8	2.7	6.4	5.3	4.4	-4.6
輸送機械	0.9	4.0	1.6	-5.1	5.4	-6.5	5.7
建設財	-1.7	-1.5	2.4	3.1	1.9	-2.4	0.2
消費財	1.3	0.0	2.6	4.3	0.2	-0.3	1.4
耐久消費財	2.4	0.9	4.8	3.0	0.0	0.9	2.4
非耐久消費財	1.0	-0.8	1.3	4.8	-0.3	-0.1	1.2
生産財	-0.8	-0.7	0.4	2.0	1.2	-0.1	0.8

(注) 1. 通産省調べ。53年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

落込んだ一方、冷間仕上鋼材(普通鋼冷延広幅帯鋼、特殊鋼冷延鋼板)や銅地金、通信・電子部品(ブラウン管、トランジスタ)、紡績(綿糸、毛糸)などが増加したため、小幅ながら再び増加した。一方、一般資本財は、土木建設機械(装軌式トラクタ、ショベル系掘さく機)、電卓等が増加したものの、前月著増のクレーン、コンベアが反動減となり、電子計算機、通信機械も落込んだため、10ヵ月ぶりに減少した。

(出荷—再びかなりの増加)

5月の出荷(速報)は+1.5%(船舶を除くでは+1.0%)と前月減少(-1.8%)のあと再びかなり増加した(前年同月比+7.0%)。

5月の出荷を財別にみると、生産同様一般資本財が減少したが、それ以外の財は増加となった。すなわち、資本財輸送機械が小型自動車、トラック(大型中心)を中心に+12.5%と前月減少(-16.9%)のあとかなり増加し、建設財もセメントや普通鋼熱間鋼管、小棒等の増加から小幅ながら増加となった。また耐久消費財は小型自動車の持直しや二輪自動車、電卓等の増加から、非耐久消費財も服類、ガソリン、フィルム等を中心に、それぞれ前月減少のあと再び増加した。さらに、生産財

もブリキ、標準モーター、C重油等が減少した一方、鋼帯、普通鋼冷延広幅帯鋼や銅地金、プラスチック、紡績(綿糸、毛糸)などが増加したため、前月減少のあと再び増加した。一方、一般資本財は、土木建設機械(ショベル系掘さく機等)、圧縮機・送風機、電卓等が増加したが、前月著増のクレーン、コンベアが反動減となり、電子計算機、変圧機、通信機械等も落込んだため、3ヵ月ぶりに減少した。

(在庫—減少)

5月の生産者製品在庫(速報)は、-0.7%と前月増加のあと再び減少(前年同月比-1.8%)となり同在庫率指数(50年=100)も84.5と前月比2.5ポイント低下した(49年4月<85.3>以来の低水準)。

財別にみると、資本財輸送機械、耐久消費財、非耐久消費財は増加したが、一般資本財、建設財、生産財は減少を続けた。すなわち、一般資本財はポンプ、標準変圧器、通信機械等が減少したことから4ヵ月連続減少したほか、建設財もH形鋼、アルミサッシ、コンクリートパイルを中心に減少を続け、生産財もブリキ、C重油、段ボール原紙等が増加した反面、銑鉄、粗鋼や、銅地金、

鋳工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年		53年		53年		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
鋳指数	113.9	113.9	115.8	119.6	121.8	119.6	121.4
工前期(月)比	-1.0	0.0	1.7	3.3	2.7	-1.8	1.5
業前年同期(月)比	3.5	1.9	2.9	4.2	6.3	4.8	7.0
投資財	-1.1	-1.2	4.0	4.1	4.1	-2.3	0.6
資本財	-0.9	-1.0	4.3	5.3	6.2	-3.6	1.2
同(輸送機械を除く)	0.2	0.3	4.8	4.1	6.7	2.9	-3.9
輸送機械	-2.3	-3.2	2.8	7.5	8.0	-16.9	12.5
建設財	-2.0	-0.3	4.0	0.8	0.0	-0.1	0.6
消費財	-0.8	1.6	1.0	5.0	2.5	-3.8	2.3
耐久消費財	-0.5	2.6	3.7	4.0	6.2	-6.5	2.5
非耐久消費財	-0.5	0.2	0.4	4.9	0.2	-1.7	2.2
生産財	-1.7	0.0	0.8	2.2	1.6	-0.4	1.0

(注) 1. 通産省調べ。53年5月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鋳工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類は前期(月)末比増減(-)率・%)

	52年(期末)			53年(期末)	53年		
	6月	9月	12月	3月	3月	4月	5月
鋳指数	106.1	105.4	105.7	103.4	103.4	103.9	103.2
工前期(月)末比	3.5	-0.7	0.3	-2.2	-1.8	0.5	-0.7
業前年同期(月)末比	9.3	6.4	3.0	0.9	0.9	-0.3	-1.8
投資財	1.7	-1.8	-1.4	-4.0	-2.3	-1.2	-0.4
資本財	2.0	-0.1	0.9	-5.4	-3.3	-1.6	-0.1
同(輸送機械を除く)	1.8	-1.0	-2.1	-3.2	-2.1	-3.3	-1.0
輸送機械	0.8	2.4	5.5	-7.5	-3.8	-0.2	2.3
建設財	0.9	-3.6	-5.0	-1.6	-0.9	-0.4	-0.3
消費財	5.7	-1.3	3.0	-2.1	-3.4	3.4	-0.3
耐久消費財	6.0	-3.3	1.7	1.8	-1.8	3.6	0.3
非耐久消費財	5.8	0.3	2.6	-4.2	-3.3	2.6	0.1
生産財	2.9	0.8	-1.0	-1.3	-0.4	-0.9	-1.1

(注) 1. 通産省調べ。53年5月は速報。
2. 前年同期(月)末比は原指数による。

プラスチック(塩ビ、ポリエチレン)、紡績(綿糸、合繊糸)などが減少したため、全体として4か月連続の減少となった。一方、資本財輸送機械は小型自動車、普通自動車の増加を主因に4か月ぶりに増加し、耐久消費財もカラーテレビ、電気冷蔵庫、小型自動車などを中心に、また非耐久消費財も揮発油、灯油、洗剤などの増加から、それぞれわずかながら2か月連続の増加となった。

(設備投資——一般資本財出荷は減少)

5月の一般資本財出荷(速報)は、-3.9%と前2か月増加のあと減少した。

これを品目別にみると、土木工事関連の土木建設機械、ポンプ、圧縮機・送風機や輸内需堅調の金属工作機械、電卓等は増加したが、前月著増のクレーン、コンベアは反動減となり、電子計算機、変圧機、通信機械なども当月は落込んだ。

5月の機械受注額は船舶を除く民需で-1.7%(前年同月比+12.4%)、船舶・電力を除く民需でも-9.7%(同+0.4%)とそれぞれ2か月連続の減少となった。

業種別にみると、製造業からの受注は、繊維、紙・パ、石油等が前月著減の反動増となった反面、鉄鋼、自動車、機械等が減少を続け、窯業も反動減となったため、-5.1%(前年同月比-0.2%)と前月に引続き減少した。また、非製造業(船舶を除く)からの受注は電力からの受注が著増(+44.1%)したことから+5.4%(前年同月比+21.2%)と

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	52年		53年	53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	3月	4月	5月
民需	2,446 (- 8.7)	2,371 (- 3.0)	3,069 (29.4)	3,756 (34.0)	2,713 (- 27.8)	2,683 (- 1.1)
同(船舶を除く)	2,337 (- 6.8)	2,375 (1.6)	2,892 (21.8)	3,508 (34.0)	2,687 (- 23.4)	2,642 (- 1.7)
製造業	966 (- 6.2)	888 (- 8.1)	1,119 (26.0)	1,341 (32.2)	1,014 (- 24.4)	963 (- 5.1)
非製造業	1,499 (- 9.2)	1,502 (0.2)	1,910 (27.1)	2,320 (33.5)	1,675 (- 27.8)	1,733 (3.5)
同(船舶を除く)	1,429 (- 4.4)	1,520 (6.3)	1,741 (14.5)	2,117 (37.3)	1,618 (- 23.6)	1,705 (5.4)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

前月減少のあと再び増加したが、電力以外の業種では建設、農林漁業をはじめ軒並み減少した(船舶・電力を除くと-11.1%と再び減少)。

この間、官公需は通信関係が増加を続けたものの、防衛庁が著減したほか、運輸、その他官公庁向けも減少したため、-26.2%(前年同月比+3.2%)と前月増加のあと再び減少をみた。

この間、建設工事受注(民間分、速報)は、+8.8%と前月に引続きかなりの増加を示し、前年同月比では+15.1%と3か月ぶりに再び2けた台の伸びとなった。

◇5月の小売商況は引続き堅調

5月の全国百貨店売上高(速報)は、-0.5%と減少し、前年同月比でみても+6.6%(前月同、+7.3%)とやや伸びが鈍化した。もっとも、これは酒税引上げに伴い酒類の売上げ減少から食料品の伸びが落込んだことによるところが大きく、食料品を除く他の品目は堅調な売行きを示した。

すなわち、衣料品が婦人夏物衣料や紳士カジュアルを中心に売行きが伸長したほか、身の回り品(婦人用品)、家庭用品(家具)、雑貨(スポーツ用品)なども前月に引続き順調な伸びとなった。

一方、6月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は、前月大幅増加(+8.6%)のあと-4.3%と反落したものの、前年同月比でみると+20.2%(前月+22.5%)と引続き高い伸びとなっている。当月は、小型車が好調な売行きを続けたことに加え、従来低調であった大衆車についてもやや伸びが高まった。

◇商況の基調——総じて底固いが、輸入関連品などは軟化

6月の商品市況をみると、セメントが堅調を続け、鋼板類、合繊糸も保合い圏内で推移したほか、棒鋼、石油製品(ガソリン、C重油等)、一部合成樹脂(中低圧ポリエチレン)は輸出引合いの増加等需要の持直しもあって反発ないし下げ止りとなるなど総じて底固い推移を示した。もっともこの間、綿糸、か性ソーダは軟化、非鉄(銅、亜鉛)、木材、砂糖、段ボール原紙などでも反落商況を呈

した。当月軟化した品目については、①円相場の高騰や海外相場の軟化から国内建値の引下げ思惑(銅、亜鉛)や輸入玉流入増による先安感(綿糸、木材)がみられたほか、一部品目については、②季節的不需期入りなどから流通筋に在庫手当慎重化の動きが広まったこと(綿糸、塩ビ、木材、段ボール原紙)や、③先行きカルテル打切り等による減産緩和が見込まれたこと(綿糸、砂糖)、などが響いたもの。

(卸売物価——大幅下落)

6月の卸売物価は-0.4%と前月上昇(+0.3%)のあと再び下落した(前年同月比-2.1%)。

品目別にみると、食料品(豚肉)が小幅上昇となり、繊維製品等も減産効果から保合いとなったが、為替市場における円相場の上昇を映じて石

油・石炭・同製品(原油、原料炭)、輸送用機器(小型乗用車)、電気機器(カラーテレビ)等が輸出入品を中心に大幅下落となったほか、パルプ・紙・同製品、化学製品、などは国内需要の停滞から続落した。

(消費者物価——6月<東京都区部、速報>は大幅下落)

6月の消費者物価<東京都区部、速報>は、総合で-1.3%と月間下落幅としては43年6月(同-1.4%)以来の大幅下落を示した。このため前年同月比でも+3.6%と47年10月(同+3.8%)以来5年8か月ぶりに4%台を下回った。

これは季節商品が好天候による野菜、果物の出荷増を映じて大幅な下落を示したほか、その他費目も被服(婦人物衣料中心)、雑費を中心に値下り

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	53 年		53 年					
		1~3 月平均	4~6 月平均	4 月	5 月	6 月	53 年		
							上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	- 0.6	- 0.3	- 0.4	0.3	- 0.4	- 0.2	- 0.2	- 0.5
食 料 品	140.9	- 0.6	0.4	- 0.1	0.5	0.2	- 0.1	- 0.2	0.4
非食料農林産物	18.9	1.6	- 1.3	- 1.7	- 0.3	- 1.8	- 0.7	- 0.6	- 2.4
織 維 製 品	62.9	1.7	1.9	0.4	0.5	0	0	0.2	- 0.2
製 材・木 製 品	33.6	- 1.5	- 0.1	- 0.2	- 0.2	- 0.4	- 0.1	- 0.1	0
パルプ・紙・同製品	28.9	- 2.8	- 3.3	- 1.0	- 0.3	- 1.8	- 0.5	- 0.1	- 1.8
金 属 素 材	12.6	2.6	- 3.2	- 4.2	0.8	- 1.6	- 0.1	- 0.6	- 3.9
鉄 鋼	80.7	1.2	1.9	0.4	0.9	- 0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.3
非 鉄 金 属	26.1	- 1.1	- 2.1	- 1.5	0.2	0	0.6	- 0.9	- 1.2
金 属 製 品	37.0	1.1	1.6	0.5	0.5	0	- 0.1	- 0.1	0.1
電 気 機 器	73.3	- 0.4	- 0.9	- 0.7	- 0.1	- 0.5	- 0.3	- 0.1	- 0.5
輸 送 用 機 器	74.0	- 0.1	0	0	0.5	- 0.8	- 0.4	- 0.3	- 0.6
一 般・精 密 機 器	95.7	0.1	0	- 0.1	0.3	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.3
化 学 製 品	91.1	- 2.2	- 1.6	- 0.3	- 0.4	- 0.3	0	- 0.1	- 0.3
石 油・石 炭・同 製 品	102.2	- 3.0	- 4.8	- 2.8	0.3	- 1.7	- 0.5	- 0.8	- 1.8
窯 業 製 品	30.5	1.3	1.6	0.9	0.2	0	- 0.1	- 0.1	0.1
電 力・ガ ス	25.5	- 0.6	- 0.7	- 0.3	- 0.2	- 0.2	0	- 0.2	- 0.1
雑 品 目	66.1	- 1.2	1.0	0.7	0.4	- 0.1	0.3	- 0.1	- 0.3
工 業 製 品	816.4	- 0.5	0	- 0.1	0.3	- 0.4	- 0.1	- 0.1	- 0.4
大 企 業 性 製 品	579.9	- 0.6	- 0.3	- 0.2	0.4	- 0.4	- 0.1	- 0.2	- 0.4
中 小 企 業 性 製 品	214.6	0.1	0.5	0.2	0.1	- 0.2	0	0	- 0.1
非 工 業 製 品	158.1	- 1.1	- 1.8	- 1.6	0.3	- 0.8	- 0.4	- 0.7	- 1.0

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	53年		53年			最近月の前年同月比		
		1~3月平均	4~6月平均	4月	5月	6月			
東京	総合	100.0	0.9*	2.0	1.2	0.6*	-1.3	* 3.6	
	季節商品を除く総合	91.9	0.4	1.8	1.1	0.7	-0.3	4.0	
	(季節商品)	(8.1)	(6.2)	(4.0)	(2.8)	(0.6)	(* -12.4)	(* -2.4)	
	食料	40.1	1.6	1.3	0.7	0.5*	-2.9	* 2.7	
	住居	11.1	0.5	1.5	0.9	0.8	0.3	4.0	
	光熱	4.2	-0.2	0	0	0	-0.1	-0.3	
京	被服	12.4	-2.0	2.5	0.9	2.1	-0.7	5.0	
	雑費	32.2	1.3	2.9	2.1	0.4	-0.4	4.4	
	総合	100.0	0.4	...	1.1	0.6	...	3.5	
全国	季節商品を除く総合	91.7	0.3	...	0.9	0.7	...	4.3	
	(季節商品)	(8.3)	(2.8)	(...)	(2.5)	(-0.4)	(...)	(-3.3)	
	特殊分類	農水畜産物	16.3	1.0	...	0.7	-0.2	...	0.2
	工業製品	46.6	-0.6	...	0.4	1.2	...	3.4	
	うち大企業性製品	21.4	-0	...	-0.1	0.5	...	1.0	
	中小企業性製品	25.2	-0.9	...	0.8	1.9	...	5.3	
サービス	33.6	1.2	...	2.1	0.2	...	5.3		

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

したため(住居費は小幅上昇)である。

◇総合収支は4ヵ月ぶりの赤字

5月の国際収支は、貿易収支の黒字幅が、輸入の増加からかなり小幅化する一方、貿易外、移転収支が赤字幅を拡大、長期資本収支も前月をさらに上回る既往最高の流出超となったため、総合収支では113百万ドルの赤字と4ヵ月ぶりの赤字となった。

経常収支は、貿易収支が前月比かなり縮小したほか、貿易外収支の赤字幅も輸入増に伴う貨物運賃の支払増等から拡大したため、739百万ドルの黒字と前月(黒字1,740百万ドル)に比べ黒字幅をかなり縮小した。

長期資本収支は、本邦資本が円建て外債発行の高水準持続や対外証券投資の積極化から引続き大幅流出超となったのに加え、外国資本も対日債券投資の大幅処分超を主因に8ヵ月ぶりに流出超となったこともあり、収支じりでは流出超1,424百万ドル(前月同1,104百万ドル)と既往最高の流出超

となった(従来の最高48/12月流出超1,235百万ドル)。

一方、短期資本収支は、BCユーザンスや原油の延払い輸入増等輸入信用の享受増から前月(流出超14百万ドル)比流入超幅を大幅に拡大(同430百万ドル)した。

なお、5月の貿易収支は季節調整済み計数で見ると、輸入(5,917百万ドル)が、新税実施(6/1日)を前にした原油の駆込み輸入等を映じかなり増加(+4.8%)したものの、輸出(7,998百万ドル)も船舶、化学肥料、食料を中心に輸入を上回る伸び(+7.4%)となったため、黒字幅は2,081百万ドルと前月(黒字1,804百万ドル)に比べ拡大した。

この間、外貨準備高は183百万ドル増加し、月末残高は27,709百万ドルとなった。

(輸出—再び増加)

5月の輸出(国際収支ベース)は、季節調整済み前月比+7.4%と前月減少(-5.9%)のあと増加した(原計数の前年同月比では+26.7%の増加)。

品目別(通関ベース)にみると、重電機器、二輪自動車、光学機器、テープレコーダ等が減少したものの、船舶、化学肥料、が前月大幅減の反動もあって増加したほか、食料、自動車も増加した。

地域別には、中近東、ソ連、中南米向けが減少した反面、米国、EC、中国、東南アジア向けが増加した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、前月(-5.1%)に続き-0.9%の減少となった。

(輸入—前月に続き増加)

2月の輸入(国際収支ベース)は、季節調整済み前月(+9.3%)に続き増加(+4.8%)した(原計数の前年同月比では+15.4%の増加)。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	52 年		53 年	53 年			前年 5 月
	7～9月	10～12月	1～3月	3 月	4 月	5 月	
経 常 収 支	3,261	4,581	4,005	2,427	1,740	739	85
貿易収支	4,717	6,011	5,843	3,131	2,274	1,373	603
輸 出	20,197	22,243	21,464	8,632	7,704	7,627	6,022
輸 入	15,480	16,232	15,621	5,501	5,430	6,254	5,419
貿易外収支	△ 1,373	△ 1,360	△ 1,721	△ 643	△ 489	△ 533	△ 501
移 転 収 支	△ 83	△ 70	△ 117	△ 61	△ 45	△ 101	△ 17
長期資本収支	△ 1,077	△ 1,176	324	211	△ 1,104	△ 1,424	△ 236
本邦資本	△ 1,218	△ 2,081	△ 2,781	△ 1,172	△ 1,309	△ 1,135	△ 250
外国資本	141	905	3,105	1,383	205	△ 289	14
基礎的収支	2,184 (1,846)	3,405 (2,167)	4,329 (5,853)	2,638 (2,261)	636 (166)	685 (23)	△ 151 (452)
短期資本収支	△ 452	129	213	414	14	430	289
誤差脱漏	8	479	402	87	△ 421	142	252
総 合 収 支	1,740	4,013	4,944	3,139	229	△ 113	390
金融勘定	1,740	4,013	4,944	3,139	229	△ 113	390
外貨準備増減	480	4,980	6,360	5,021	△ 1,682	183	△ 66
その他	1,260	△ 967	△ 1,416	△ 1,882	1,911	△ 296	456
外 貨 準 備 高	17,868	22,848	29,208	29,208	27,526	27,709	17,251
為銀対外ポジション	△ 11,731	△ 12,408	△ 14,560	△ 14,560	△ 12,667	△ 12,920	△ 13,562

- (注) 1. 基礎収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
52 年 7 ～ 9 月	6,678 (+ 3.5)	5,218 (+ 2.6)	1,460	6,789 (+ 3.8)	5,916 (+ 1.1)	4,790 (+ 5.9)	7,240 (+ 3.6)	5,741 (- 1.0)
10 ～ 12 ヶ	6,903 (+ 3.4)	5,312 (+ 1.8)	1,591	7,058 (+ 4.0)	5,959 (+ 0.7)	4,983 (+ 4.0)	7,547 (+ 4.2)	6,005 (+ 4.6)
53 年 1 ～ 3 月	7,780 (+ 12.7)	5,324 (+ 0.2)	2,456	7,839 (+ 11.1)	6,171 (+ 3.6)	5,279 (+ 5.9)	8,078 (+ 7.0)	6,054 (+ 0.8)
53 年 2 月	7,884 (+ 4.6)	5,431 (+ 0.9)	2,453	8,035 (+ 6.2)	6,290 (+ 0.9)	5,156 (+ 2.6)	8,000 (- 2.1)	6,309 (+ 10.0)
3 ヶ	7,916 (+ 0.4)	5,162 (- 5.0)	2,754	7,916 (- 1.5)	5,991 (- 4.7)	5,655 (+ 9.7)	8,062 (+ 0.8)	6,118 (- 3.0)
4 ヶ	7,448 (- 5.9)	5,644 (+ 9.3)	1,804	7,646 (- 3.4)	6,349 (+ 6.0)	5,368 (- 5.1)	7,783 (- 3.5)	6,591 (+ 7.7)
5 ヶ	7,998 (+ 7.4)	5,917 (+ 4.8)	2,081	8,067 (+ 5.5)	6,840 (+ 7.7)	5,319 (- 0.9)	8,300 (+ 6.6)	6,372 (- 3.3)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 3. 輸出信用状受領および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

品目別(通関ベース)にみると、前月大幅に伸びた機械機器、化学製品が減少したほか、石炭、鉄鋼も在庫高水準等から伸び悩んだものの、大豆、肉類、非鉄金属鉱に加え、ウエイトの高い原油が新税実施(6/1日)を前にした駆け込みもあって、

かなりの増加となった。

輸入承認届出額(特殊大口を除く、季節調整済み前月比)は、4月増加(+7.7%)のあと、5月は-3.3%の減少となった。